

くんまの伝承 後世に

静岡文化芸術大（浜松市中央区）の学生4人が、天竜区の熊地区に残る昔話や伝説を書籍「天竜くんまの昔ばなし」にまとめ、三弥井書店（東京）から刊行した。地元住民からは「くんま」と呼ばれる地区を学生が訪れて聞き取り調査し、方言や語り口を残したまま記録した。学生は「貴重な話を後世に伝えていければ」と話す。（荒木正親）

「天竜くんまの昔ばなし」
を中野市長等に渡す学生ら＝浜松市役所で



文化芸大生 天竜区で聞き取り、刊行

「しっぺい太郎」にまつわる話も

4人は文化政策学部4年の鈴木実咲さんと、滝澤未来さん、服部奏さん、廣瀨波貴さん。二本松康宏教授の伝承文学ゼミに所属し、昨年6月から今年1月にかけて熊地区で20回以上調査した。本には昔話29話や伝説25話など、41人から聞き取った計90話を掲載した。

熊地区（熊、神沢、大栗安）は江戸時代、秋葉山から奥三河へとつながる街道の宿場町として栄えた歴史がある。聞き取りした話の中には、磐田市で有名な妖怪を退治した霊犬「しっぺい太郎」にまつわるものもあり、街道を通して伝わったことがうかがえるという。

熊地区は現在、人口約420人で、多くが高齢者。廣瀨さんは「多くの物語がこのまま伝えられずに消える可能性もあった中、地域の人と信頼関係を構築し、託してもらった。後世に伝えていければ私たちの活動の意義がある」と語った。

学生4人は10日に浜松市役所を訪れ、中野祐介市長に活動を報告した。二本松教授の過去のゼミ生も天竜区の水窪、龍山、春野に伝わる昔話を本にまとめている。本年度からは佐久間で調査する。

「天竜くんまの昔ばなし」はA5判で181ページ、1430円。